

各位

党派を超えて国家的課題を追求する

公益財団法人協和協会

時代を刷新する会

両団体会長代行 岸 信夫

両団体理事長 半田晴久

新エネルギー委員長 中島稔

両団体専務理事 清原淳平

新エネルギー委員会のお知らせ (第310回)

日時 平成29年4月6日(木)午後2時～4時半

場所 衆議院第一議員会館 地下1階 第5会議室

千代田区永田町2-2-1

◆国会議事堂前駅(丸の内線・千代田線)①番出口より2分、永田町駅(有楽町線・半蔵門線)①番出口より下車5分。当日、午後1時半より、議員会館玄関にて、通行証を差し上げます。その時刻前に到着された方は、恐縮ですが、受付脇のロビーにてお待ち下さい。会議開始後にお越しの方は、受付に「第5会議室に行きたい」旨お伝え下されば、お迎えに参ります。

議題 1、最近の再生・新エネルギーについて想う

挨拶 中島稔新エネルギー委員長

2、『新エネルギー関連ニュースNO.164』

解説 中島稔新エネルギー委員長

3、浮体式潮流発電について

解説 居駒知樹日本大学理工学部教授

報告 去る3月7日開催の第309回新エネルギー委員会は、中島稔新エネルギー委員長が議長を務め行われました。

まず、「最近の再生・新エネルギーについて想う」と題して、中島委員長より開会挨拶がありました。日本の水素インフラ整備は、限界に近い状態だという。水素ステーションをつくるコストに比べて、水素の価格が安すぎて利益が出ないようだ。貯蔵や運搬技術の確立まで20年、CO₂フリー水素の製造が可能になるまで30年かかるため、道のりは遠い。インフラ投資が進まないのであれば、水素自動車購入促進のために補助金を上乗せしてはどうかというのがある専門家の意見だった。

次に、中島稔委員長より『新エネルギー関連ニュースNo.163』の解説がありました。今回は、○不燃性の安全性の高い固体材料を使ったリチウムイオン電池、3年後の実用化を目指す。従来技術では電極との結びつきが弱く、電池がショートし易かった。○蓄電容量4倍の電極材、カーボンナノチューブを活用し充電を大幅短縮。○水素の金属透過を計測する電子顕微鏡の開発。金属中に水素がしみこみ金属が脆くなる原理の解明を目指す。○三重県中央部の高原で風力発電の開発が進む、風車1基あたり2MWで、総発電容量150MW以上となる。○家庭の生ごみや会社の紙ごみからガス燃料を製造する技術。○超臨界発電候補地、東北か九州に絞られる。世界的に成功例はまだないが、成功すれば数百万KWが見込まれる。○上越沖の表層型メタンハイドレート、6億立方kmとの試算。○偏光型LEDの開発。内視鏡に組み込んでがん細胞の発見などに期待される。などの解説があり、一同大いに勉強になりました。

次に、清原淳平専務理事より、本日の講師・井上晴夫首都大学東京教授の経歴紹介がありました。次に、井上教授より、「人工光合成技術の進展について」解説がありました。化石燃料資源には限りがあり、再生エネルギーもある程度の限界があるが、太陽光を用いて光合成を人工的に行い、水素を生成出来れば、CO₂の削減にも貢献できる可能性がある。1972年に発見された本多藤嶋効果をきっかけに、人工光合成技術の研究は進められてきたが、目下の課題は高効率化である。水の分子からいかに電子を引き抜くかがカギであるが、光触媒と塩化鉄を用いて、可視光を当てて水を分解する技術も最近に着目されている。今後の課題は、耐久性、低電圧でも可能かどうか、低温でもできるか、水中でもできるか、などである。

★レクチュアにつき、当日会費 会員千円、非会員三千円にご協力を。

次回、4月6日(木)の新エネルギー委員会に

出・欠 (いずれかに○印)

御芳名 _____

貴方様のFAX _____

テロ対策への警備からの要請上、会員に限ります。

参加希望者は、予め履歴書をご提出下さい。

事務局宛FAX 03-3507-8587

協和協会事務局 ☎03-3581-1192 時代を刷新する会事務局 ☎03-3272-4320

HP <http://www.jidaisassin.jp> Eメール kiyohara@jidaisassin.jp